

7. 眼および付属器の疾患 (H531)

文献

鶴浩幸、長谷川希、佐藤万代、他. 鍼刺激がフリッカー値および唾液アミラーゼに与える影響. *日本統合医療学会誌* 2017; 10(1): 124-126. 医中誌 Web ID: 2017333214

1. 目的

鍼の疲労回復作用の一端を明らかにすること。

2. 研究デザイン

ランダム化クロスオーバー試験

3. セッティング

明治国際医療大学、京都、日本

4. 参加者

日頃から目の疲れと肩こりを感じていて、屈折異常以外に特別な疾患を持たない健康成人 10 名 (女性 6・男性 4、平均年齢 21.8±0.4(SD))

5. 介入

Arm 1: 鍼群 10 名 (手三里・合谷・光明に 16 号鍼を切皮置鍼 10 分)

Arm 2: 対照群 10 名 (手三里・合谷・光明に鍼管を当て、鍼管上部を軽く数回叩くのみで 10 分安静。被験者には「置鍼中である」と伝える。)

Wash-out 期間は 1 カ月以上

6. 主な評価項目

フリッカー値 (20 Hz からの上昇法、刺激前後に各 3 回ずつ測定した平均値) および唾液アミラーゼ (刺激前後に各 3 回ずつ測定した中央値)。

7. 主な結果

フリッカー値 (Hz) は、鍼群で 1 回目 35.1±3.9→2 回目 37.3±2.2、対照群では 1 回目 36.1±2.9→2 回目 35.8±3.1、反復測定分散分析で群間有意差あり。唾液アミラーゼ測定値 (kIU/L) は、鍼群で 1 回目 57.2±24.4→2 回目 45.6±29.8、対照群では 1 回目 41.0±12.6→2 回目 47.6±18.5、群間有意差なし。(いずれも平均±SD)

8. 結論・意義

フリッカー値は中枢神経系の疲労を間接的に判定する指標といわれており、鍼群と対照群の間に有意差が認められたことは、鍼刺激が中枢神経系の活性や代謝に影響を与え、その結果として疲労を軽減させる可能性のあることが考えられた。唾液アミラーゼの変化については群間に有意差はなかったが、鍼群では対照群と比較して差のある傾向がみられた。鍼刺激が快適な刺激となり、ストレスの軽減がもたらされる可能性が考えられた。

9. 鍼灸医学的言及

鍼刺激によって生じる目の疲れや疲労などの軽減には中枢神経系を介した反応が関与している可能性が示唆される。

10. 論文中的安全性評価

有害事象はなかった。

11. Abstractor のコメント

いわゆる偽鍼対照のクロスオーバー試験である。偽鍼の手法は管散術であり、これよりも切皮で刺入し置鍼したほうがフリッカー値で評価した目の疲れに効果的であるということを本試験は示している。一方、唾液アミラーゼについては、鍼群と対照群の変化の方向性が異なるので確かに鍼群はストレス軽減に作用するのかもしれないが、「鍼刺激が快適な刺激」となったのであれば、患者ブラインドは不成功だった可能性もある。ブラインドの成否、効果の持続時間、肩こりの変化など、さらに詳細な情報を盛り込んだ本格的な試験が実施されることを期待したい。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.12